



○周年を迎えるこ

このように述べていきます

本杉ではとうていやってい

の廻りに槇の苗木を植え翌朝

(徳島聖三子教会牧師)

神戸教区は、二〇一六年に
宣教一四〇周年を迎えるため、
現在、様々な取り組みがなさ
れています。その一つが、教
区史の編集です。各教会に、
教区歴史編纂委員会から、依
頼文とともに、DVDにフ
イルされた膨大な資料に、驚
かされたことでしょうか。わた
しも、歴史編纂委員の一員と
して、教区にある資料(整理・
未整理を含め)に、改めて驚

きの念を隠せませんでした。
今こうして、一枚のDVDに
纏められたのは、これまで、
この作業に携わった歴年の編
纂者たちの尊いご奉仕にあっ
たことを、覚えたいと思いま
す。
* * *
さて、各教会には、様々な
形で、資料となるものが残さ
れています。わたしは、今年
三月まで、富岡キリスト教会
(徳島県阿南市)

とになります。今から三十年
前、一九八四年に、宣教百年
を記念し、「百年誌」が発行
されました。それによりま
す、一八八四年九月、佐藤旅
館(富岡町)で、当時、徳島
におられた、山下有任伝道師
が、説教会を開いたことによ
ります。その後、徳島から、
H・エヒントン司祭、G・チャ
プマン司祭によって説教会が
開かれ、一八八五年(明治一
八年)八月に、大人七名、子
供六名が受洗しています。一
八八六年(明治一九年)に、
富岡町に講義所が設けられ、
一八九〇年(明治二三年)、
初の定住者として、村田里伝
道師が着任します。そして、
一八九一年(明治二四年)三
月六日、信徒の尽力もあり、
長生村本庄(現在の阿南市長
生町)に教会が建てられ、E・
ピカステス主教により、聖別
されます。

「教会は、祖母の家の門の前
の所に出来当時の古い写真が
ありました。明治中頃の事と
てキリスト教を片田舎のこと
ではあり何も知らなかった
と思われます。それで村の古
くからの習慣とか宗教行事と
は全く異なった宗教に、反感
やねたみを持ったか、ヤソ教
は外国の宗旨だ日本の神を排
せよと何かにつけて事毎に悪
く言われ反感を持って、いや
がらせをされた様です。と言
うのも、村をあげてのお祭り
には参加せずお参りにも行か
ないし、なおさら家の中には、
天照大神、神棚も祀らないの
を不思議がるのも無理もない
事と思われます。『野中の一
本杉ではとうていやってい

まい。』とも言われ、又屋敷
の廻りに槇の苗木を植え翌朝
みると皆抜かれて根が上向き
になっていたとか、全く四面
楚歌で異端視され迫害され苦
しい事もあったようです。」
(四一〜四二頁、原文のまま)
* * *
このように、文字通り紆余
曲折を経て、現在地(富岡町
あ石)に、三代目の教会が、
一九五五年(昭和三〇年)に
建てられ、今に至っています。
なぜ、ここまで、続けられて
来たのでしょうか？わたしは、
そこに神が働かれ、神の導き
を感じて、イエスをキリスト
(救い主)として信じる人々
がいたからだと思えます。神
からの賜物(プレゼント)を
いただくわたしたちが、その
日、その時を生きているという証
しによって、今という時を迎
えることができたのです。こ
の思い、そして日々生かされ
ているという喜びをもって、
わたしたちも神に愛された者
の一人として、これからも、
神の導きによって生かされ、
次の世代への橋渡し役を担っ
ていくことが、求められてい
るのではないのでしょうか。

(徳島聖三子教会牧師)

司祭 トマス 河村 博之

教会の歴史から学ぶこと

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2014年
7月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

第50回神戸教区 婦人会大会を終えて

セシリア 深田久美子



5月20日と21日の日程で第50回神戸教区婦人会大会を開く事が出来ました。
一日目は米子全日空ホテルで開会礼拝と記念講演会・懇親会を行いました。記念講演会の講師として、学校法人ノートルダム清心学園理事長のシスター渡辺和子師をお迎えしました。講演会には、日帰り参加の申し込みもあり、シスター渡辺の人氣が良く分かりました。
第50回記念大会ということで、婦人会本部とも相談のうえ、3月の世界祈祷日に米子の近隣の超教派の教会の皆様にも講演会のご案内をしました。すると、

予想外の応募者数で、泣く泣く2教会の方々はお断りさせて頂きました。今後、当教会で上映会を開いて、当日参加いただけなかった方にもシスター渡辺の講演を見ていただけるように計画しています。

本大会のテーマでもある「置かれた場所で咲く」というお話は、参加者お一人お一人の心に響いたことでしょう。私も山陰伝道区の会員がそれぞれ出来ることで大会運営に携われたことも、「置かれた場所で咲く」ことの一つだと思いました。

二日目は聖餐式、全体会(本部主催)、閉会式を米子聖ニコラス教会に移動して行いました。全体会の中で「歴代の婦人会長」と「大会多数参加者」の表彰と記念品贈呈が行われました。今まで、教区婦人会の為にご苦労なされた方々に皆で感謝いたします。



しました。

大会終了後のアンケートに、「皆様の笑顔とおもてなしが素敵でした。」と沢山の方に書いて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。「懇親会のお料理も完璧でした。」にも、準備の甲斐があったと喜んでおります。この大会を通して会員全員が心一つにできたこと、恵み多い賜物を頂きましたことを感謝致します。

大会を終えた今、今度は「面倒だからしよう」という題のシスター渡辺の著書にしたがって(?) 報生号の準備に取り掛かっています。

最後に今大会に出席して下さった方々の参加者数を紹介します。講演会参加者105名、近隣の参加者78名、聖餐式参加者94名でした。

(大会実行委員長、
米子聖ニコラス教会)

日本聖公会第61定期総会

司祭 パウロ 上原 信幸

五月二十七日から三日間にわたって日本聖公会の定期総会が行われました。隔年で行われている総会で協議された内容は多岐にわたりますので、概要をお伝えしたいと思います。

献金奉献活動の継続

「神学校のために祈る日」、「海の主日」、「大斎克己献金」など管区をあげて祈る日・献金奉献活動を継続することが決まり、これからの四年間継続されます。

祈禱書改正準備委員会設置

現在の祈禱書が発行されて十四年がたち、「御言葉の礼拝」など、様々な変化が起きつつあります。前回の委員会設置は、一九五九年版の文語祈禱書が発行された十二年後で、それから一九九一年の口語祈禱書発行まで約二十年の間準備をしたこととなります。ただちに改正委員会を設置するのではなく、準備委員会として課題を検討していきます。

協働・多文化共生など

日韓聖公会宣教協働三十周年記念大会が、二〇一四年十月二十日に济州島で開催されます。また、国境問題などに端を發し

国内で増えている民族・人種憎悪犯罪・差別表現(ヘイトスピーチ)の根絶等などが採択され、ハラスメントに関する担当者や、女性聖職者に関わる諸問題の調整等を目的とした委員会が設置されることになりました。

祈禱書一部改正

最も時間をかけて協議されたのは、主教会と礼拝委員会から合同で出された「祈禱書一部改正案」です。祈禱書の二八五頁等にある「堅信を受けた者、またその準備を終えて主教から特別の許可を受けた者は、陪餐することが出来る。」という部分が削除されます。これによって大きく変わろうとするのは「洗礼を受けた者は、陪餐を受けることができる」ということです。

一九六八年のランベス会議で「陪餐許可と堅信式とは分けること」ということが勧告され、既に多くの海外の聖公会でも実践されています。今年度の協議によって即座に教会生活に変化が生じるわけではありませんが、今回協賛を得ましたので、二年後の総会までに関係する法規との調整等の充分準備をして決定するという流れになります。

その他、首座主教には植松主教様が再選され、総主事には矢萩司祭(京都教区)が選出されました。

聖オーガスチン教会

建築奮闘記⑤

ヨハネ 大森文太郎

岡山聖オーガスチン教会の新しい教会ホール・牧師館建築を支援するために、瀬戸内伝道区主催のバザーを開催することになり、5月10日(土)に岡山の教会ホールと庭にテントを張ってバザーを行いました。

当日はさわやかな晴天にめぐまれて、早朝より瀬戸内伝道区の四つの教会から、多数の人がバザーに出品する品物を持って岡山に集まり、また神戸からは八代先生ご一家が特別参加してくださいました。

各教会から参加した人に役割分担を決めて、会場作り、受付、それぞれの場所での食事作りや物品販売等と、参加者全員が協力してバザーを行いました。

バザーでの出品物としては、炊込みご飯、カレーライス、うどん、焼きそば等これまでのメニューのほかに、ホルモン焼き、クレープが新たに加わり、クッキーやケーキ等のお菓子、衣類や日常雑貨、米、野菜、草花等と多岐にわたる出品となりました。

今回のバザーは、岡山の教会にとっては久しぶりのバザーで



あり、また長年にわたり岡山の教会活動の中心的役割を果たしてきたホールでの最後のバザーになりました。このため教会の近所の人たちも多数来てくださり、長年慣れ親しんだホールでのバザーを心ゆくまで楽しみ、大変にぎやかなバザーになりました。

また会場の一部にチャイルドコーナーも作られ、大人から子どもまで参加して、すべての人がそれぞれ時間を忘れて楽しい交わりのひとときを持つことができました。

今回のバザーは、岡山の教会にとっては新しい教会ホール・牧師館建築の大きな助けになりましたが、瀬戸内伝道区にとっても、各教会信徒間の交流と親睦に大変有意義な会となりました。

桜のつぼみも膨らみはじめ春の訪れを告げていた3月末、青年交流会では「Welcome to 青年交流会」と題し、新青年歓迎会を神戸聖ミカエル教会で行いました。

20人を超える青年が集い、今年には多くの新青年を迎え入れることができました。とにかくたくさんお話をし、青年同士の

Welcome to 新青年 ~青年交流会~

クララ 石原 歩

親睦を深めようと2チームに分かれ、晩ご飯を作り、食べ比べるというプログラムを考えました。餃子と焼きそばを作り、さすがにみなで一緒に作りました。みんなと一緒に作ったご飯の味はやはり特別で、お皿いっぱいのお餃子や焼きそばはあつという間に青年達のお腹の中へと消えていきました。たくさん笑いの声が響く中での歓迎会となり、とても嬉しく、私自身も楽しく素敵な時間を過ご

すことができました。1泊2日で行われた歓迎会2日目は、青年交流会の主な活動や、これからの青年交流会の活動についてのお話や報告の場を設け、主にU26(26歳以下の全国の青年の集まり)の報告、フィリピンワークキャンプの報告、そして青年交流会の杉野チャップレンからのお話といった内容で行いました。真剣に教会について考えている青年達は、昨日とはまた違う表情が見え有意義な時間を共有できたのではないかと思います。

私はこの青年交流会の中で『青年の力』を改めて感じられた2日間だったと思います。活気に溢れ、行動できる青年達がいることでより良い活動や新しい風を吹き込むチャンスが生まれます。今、多くの教会で若者の教会離れが進み、高齢化が問題となっているようです。私たちの神戸教区にはたくさん青年がいます。たくさん青年がいるこの神戸教区から青年が繋がり活発に動くことで神戸教区はもちろん、教区を越え他教区へも力を届けられるのではないかと思います。青年の多い理由として、50回続いている中高生大会の存在があげられます。素晴らしい繋がりのある中で、青

年となってもその繋がりを大切に、また青年となってさらに広がる環境を契機に新たな歴史を築いてほしいと思います。これからも青年交流会が充実したものであるよう、皆様にはあたたかく見守って頂き、応援して頂ければ幸いです。青年の皆さん、溢れるパワーを皆さんに届けていきましょう！

次回の交流会は、ワークキャンプを徳島で行う予定です。8月24日、27日、3泊4日の日程で清掃や竹やぶの伐採を予定しています。爽やかな汗を一緒にかき、笑顔いっぱいの青年交流会には是非来てくださいね！
(高知聖パウロ教会)



新青年たち

聖歌研究会 その一

ノエル 三木重佐子

徳島聖テモテ教会では、2007年1月より聖歌研究会を始めました。月2〜3回、主日礼拝後に行っています。「研究会」とは名ばかりで、実際は「聖歌を楽しむ会」と言ったところでしょうか。言い出した私は聖歌の専門家ではなく、ただのちょっと音楽好きな一信徒です。特に知識もないため、もっぱら『心は賛美に満ちて』（日本聖公会聖歌集改訂委員会編）と『聖公会の聖歌』（宮崎光著）に頼って進めています。

会を始めたきっかけは、もちろん『日本聖公会聖歌集』の発刊です。どこの教会にもあったかと思いますが、テモテ教会でも特にシニア世代の「新しい聖歌アレルギー」はなかなかのものではない。「伝統的ではない」というだけで拒否反応が出て聞かす嫌い。予想どおりとは言え、私には「なんでもつたない！」反応でしかありませんでした。今は「聖公会らしい伝統的な聖歌」と言われている歌も、この世に送り出されたその時は「新しい歌」だったはず。それを受け入れ、歌い継いできた人たちがいたからこそ「伝統」になったのでしょう。これから、より長くこの新しい聖歌集を使うことになる次の世代が、聖歌

の伝統に新しいページを加えるためには、やはり礼拝で歌うことが必要です。

とは言え、誰も歌ったことがない新しい歌を最初からみんなで歌えるはずはありません。また、賛美と祈りの助けとなるはずの聖歌が、メロディーに付いていくことに必死で味わえなくなるのは残念なことです。そのため、前もって歌に触れる機会を作ることにしたのでこのが会の最初の目的です。

参加者の一人から会の感想を寄せていただきましたので紹介します。

聖歌研究会は、まずは三木姉の美味しいお昼食から始まりま

す。三木姉が苦心なさって収録された英国等々の聖歌を聖歌集にそって聞かせて頂いています。

それは素晴らしいものばかりです。まあ、時には参加者の歌声も・・・ありますが。

三木姉からの説明や、参加者の思い出話もありますので、聖歌の一つづつが印象深く身近に感じられます。

テモテ教会に移籍を許された私にとっては、『み言葉の礼拝』と共に大きな喜びとして神様の恵みに感謝しています。

(リディア 大田佳世子)

この7年半の間にどのような会が進んできたか、その話はまた次回。

鳩だより 《敬称略》

祝 聖 信

5月18日(日)

ヨナタン 坂屋 道治
カタリナ 松 酒 豊子
岡山聖オーガスチン教会

祝 聖 婚

4月26日(土)

ヨハネ 井田 太郎
小田 真来
米子聖ニコラス教会

訃 去

3月21日(金)

マリア 深瀬 亀美
高知聖パウロ教会

教 籍 異 動

5月11日(日)

セバスチャン 小林 農
福山諸聖徒教会より
清里聖アンデレ教会へ

4月15日(火)

マリア 五歩一 静子
明石聖マリア・マグダレン教会

5月6日(火)

ハンナ 宇山 八子
米子聖ニコラス教会

5月9日(金)

マリヤ 竹中 美代子
広島復活教会

5月29日(木)

マリア 柏木 美代恵
米子聖ニコラス教会

西四国伝道区

◎西四国伝道区会

西四国伝道区では、伝道区委員会を5月10日(土)午後2時より、大洲聖公会に於いて、開催しました。

各教会伝道区委員、西四国伝道区宣教委員、財政委員、各教会牧師が出席し、2013年度の決算等諸報告を承認し、2014年度の活動案、予算案、2015年度拠出金、牧会資金援助金申請等々について、審議しました。

* * *

◎神戸聖ミカエル大聖堂

5月31日(土)、神戸聖ミカエル大聖堂で大聖堂聖歌隊の歌声が響いた『唱詠夕の礼拝』が献げられました。

聖歌隊がリードする『唱詠夕の礼拝』は、年内は9月と11月にも行われる予定です。ご都合のつく方は、是非、礼拝にご出席ください。

8月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2014年8月7日(木) 午前10:30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 主教 中村 豊

説教 司祭 中原 康貴

* 8月の記念逝去教役者 *

3日	伝道師	益田喜代吉
3日	司 祭	シドニー スワン
7日	宣教師	エミー ウーレイ
9日	宣教師	E トンプソン
14日	司 祭	ピーター ジャクソン
17日	司 祭	パウロ 古本 正夫
17日	伝道師	野田 璞水 翔
18日	司 祭	関 末吉 時信
20日	司 祭	ヨハネ リットソン
25日	宣教師	エリザ 村瀬 敬輔
27日	司 祭	ダミアン